本部だより

●第36号

マーシャル方面遺族会
http://mibfa1926.com

携帯サイト

●発行日：平成29年8月1日　●発行人：高林芳夫
●本部：181-0012　東京都三鷹市上連雀8-7-8
●電話＆FAX：0422-77-8557　●編集人：鈴木千春

クェゼリン島の慰霊碑

平成29年 本部役員及び篤志会員

名誉会長	朝香誠彦
相談役	大給乗龍
	黒川　誠
会長	井上賀雄
	高林芳夫
副会長	米林義昭
	山口良二
	清水雅尚
役員	岡村勝利
	鈴木千春
	内海淑子
	小室洋子
	石澤洋子
	佐藤知子
	中村順子
本部事務局	米林美智子
会計監査	吉田正明
篤志会員	徳原徳子
	安細和彦

新会長あいさつ

高林 芳夫

4月の総会で新会長に選任されました高林芳夫と申します。当遺族会は長い歴史と伝統のある会です。設立は昭和38年で、今から54年前、東京オリンピックの前の年です。初代より数えて私が7代目会長となります。当会も幾度となく解散の危機がありましたが、会員の皆様の熱い思いと、強い支えがあり、現在まで存続する事が出来ました。

今年の慰霊祭は全国から百名を超える方々が御参拝下さいました。特に若い方の参加が多くみられました事は大変嬉しい限りです。孫やひ孫の世代までも会が続きます様に新役員一同、全力で頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。当日の靖国神社の対応には心より感謝申し上げます。二階の待合室及び貴賓室まで御用意下さり、お陰様で他の団体との混雑もなく盛大なる慰霊祭を執り行う事が出来ました。

昨年度は朝香誠彦殿下に、名誉会長として御就任いただき、今年1月の現地慰霊にも御参加頂きました。

今年度は新たに相談役として、大給乗龍様・黒川　誠様・井上賀雄様の3名の方に、また篤志会員として、安細和彦様に御就任をお願い申し上げました。今後共、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

相談役

◎大給乗龍様
前相談役の大給湛子様のご子息。クェゼリンで戦死された音羽正彦殿下の甥。名誉会長朝香誠彦様の従弟。

◎黒川　誠様
元会長で平成11年～26年度まで16年の長きに亘り、当会を導いて下さいました。

◎井上賀雄様
前会長で平成27～28年度まで就任されました。

篤志会員

◎安細和彦様
平成25年2月～27年3月まで、日本国大使としてマーシャル諸島共和国に勤務。厚労省、及び日本遺族会主催の慰霊巡拝団の現地でのお世話や、以前クエゼリン環礁内で発見された日本軍の遺骨の調査、その収容作業の実施にも尽力されました。

新役員につきましては、これから順次お願いして参ります。地方の方も是非ご協力をお願い致します。

皆様のお力添えをいただきながら、会を益々充実させて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

●事務局移転のお知らせ

新体制となり当会事務局を、東京都三鷹市上連雀8・7・8に置く事といたします。

平成29年度慰霊祭報告

清水 雅尚

日時4月2日（日）午前10時～

毎年の事ながら、当日の靖国神社の桜の開花が気になりましたが、みごとな満開の桜を見ることができました。特に参集殿の二階の窓からは一幅の絵を見るような風景でした。

今年も名誉会長の朝香誠彦様ご夫妻はじめ多数の方の出席を頂きました。大給乗龍様ご夫妻、前マーシャル日本国大使の安細和彦様ご夫妻のご出席は有難いものでした。また、クェゼリンにて慰霊献歌をされた六本木男声合唱団の皆様にも出席頂きました。

10時過ぎ、靖国神社の神職の先導で拝殿に向かい、お祓いを受けた後、ご本殿へ進みました。神前へ供物の奉奠、神職による祝詞奏上、朝香誠彦様の祭文奏上がありました。次に7名による玉串奉奠と共に全員で参拝し、慰霊祭は無事終了致しました。

玉串奉奠者（敬称略）

名誉会長　朝香誠彦

相談役　大給乗龍　黒川　誠　井上賀雄

篤志会員　安細和彦

神奈川県　秋山正之　**沖縄県**　宮城　勇

慰霊祭終了後、楠の間に戻り、記念写真を撮りました。

■慰霊祭参加者（敬称略）

名誉会長　朝香誠彦　朝香貴子　大給乗龍　大給三枝子　**前マーシャル日本国大使**　安細和彦　安細菊乃　**六本木男声合唱団**　秋元征紘　初谷敬史　**青森県**　須藤明子　**宮城県**　佐藤　勉　安藤としえ　**山形県**　長岡正昭　長岡昭子　**新潟県**　山田摩希子　**石川県**　河崎仁衛　**栃木県**　岡村勝利　菊地彦亘　星野翔子　**埼玉県**　佐藤知子　小室貞男　小室洋子　大井和子　小松順子　小田原利子　小田原豊　小田原真由美　小田原由樹　小田原靖　小田原巧磨　小田原明瑠　眞鍋信一　眞鍋公代　鈴木裕子　髙林芳夫　髙林正子　**千葉県**　泉水堯恵　沖中晃子　東　邦義　雛形明美　**東京都**　井上賀雄　井上賀彦　黒川　誠　福永弥生　内海淑子　松江孝枝　鈴木千春　山口良二　間々田征史　間々田邦子　浜田つき子　浜田祐市　浜田誠二　若狭幸子　中村秀夫　中村順子　中村貴巳子　米林義昭　米林美智子　居戸和由貴　星野綾子　松尾正輝　石神康亘　**神奈川県**　石澤洋子　清水雅尚　清水俊介　鈴木友季子　糀谷友孝　服部政久　安威和子　秋山正之　池田　浩　池田尉子　**愛知県**　浜田芳枝　浜田道徳　目黒知子　目黒一誠　**岐阜県**　吉田正明　**兵庫県**　宮下美佐子　宮下愛一郎　**愛媛県**　山村一郎　渡部　守　渡部幸典　渡部一力　渡部貴裕　渡部俊哉　渡部悦子　波頭友子　白方勝彦　**香川県**　石川正興　石川妙子　金森佳子　松原　勇　松原敦子　**福岡県**　平田郁子　石松順子　**沖縄県**　宮城　勇　宮城邦子　**ゲスト**　森山史子　大川史織　鈴木　勇　島名九重

以上　一〇一名

来賓にご挨拶を頂いたのち、朝香名誉会長、秋元様、初谷様、森山様による歌、「ふるさと」の披露があり、会場が一気に和みました。

総会の前に、ご来賓のご紹介がありました。
*朝香誠彦名誉会長ご夫妻　*大給乗龍様ご夫妻
*前マーシャル大使・安細和彦様ご夫妻
*六本木男声合唱団・初谷敬史様、秋元征紘様
*森山史子様（海外青年協力隊／平成23～25年／マーシャル諸島短期大学・日本語教師）
*大川史織様（民間企業でマジュロに3年滞在）

続いて、森山様がマーシャルの歌「恋しいわ」（戦前、マーシャル人女性が日本人男性にあてて作った恋の歌）、「イーエンエンマン」（マーシャル人が来訪者に会った時やお別れの時に歌ってくれる大切な歌）を披露されました。

素晴らしい歌声をありがとうございました。

■定期総会

山口良二

日時：4月2日　午前11時～
場所：靖国神社参集殿・楠の間

総会は以下の式次第により進行しました。

一　議長選出（岡村勝利幹事を選出）
二　開会の辞（岡村議長）
三　会長挨拶（井上会長）
　今総会をもって退任する旨発言がありました。
四　会務報告（井上会長）
五　会計報告（米林副会長）
六　会計監査（内海監事）
　今総会をもって退任する旨発言がありました。
七　役員改選
　新会長に高林副会長を選出
　監事に吉田正明幹事を選出
八　新会長挨拶（高林新会長）
九　行事予定
　5月29日
　千鳥が淵戦没者墓苑拝礼式
　7月15日
　午後2時より本会の永代神楽祭
　8月15日
　全国戦没者追悼式
　平成30年4月1日12時より慰霊祭
十　その他
　高林新会長による先日の現地慰霊報告
十一　閉会の辞（岡村議長）

総会終了後直会旅行参加者16名はバスにお弁当・飲み物を積み込み一路、安房鴨川へと出発致しました。

直会バス旅行

ジブリの世界と昇運の黄金風呂を体験　沖縄県　宮城　勇

昨年22年ぶりに再開された直会旅行。今年は南房総「鴨川スパホテル三日月」を訪ねた。男女16名の1泊2日の観光バス旅行、そのいくつかを紹介する。

空と海が一体となり視界360度の大

パノラマが車窓に展開する高速道路・東京湾アクアライン。今更ながらではあるが、初めての者にはやはり驚愕と痛快の「海中道路」であった。鎮魂の社として悠久の長きにわたって慕われてきた靖国神社。片や海の底に、海の上にと人智を結集して作り上げた巨大な人工の道路。大海原を疾走しながら改めて新旧建造物に感じ入り、先人の叡智と無限の可能性に思いを致した。

「まるでジブリの世界！」を謳い文句とする「濃溝の滝」（千葉県君津市）に立ち寄った。水量や日照の都合からか、やや思惑外れの感はあったものの、滝から駐車場までの復路には趣向を凝らした「板橋」が備えられ、水量をたたえた日には「さぞかし」の風景が広がるのだろうと推測した。

旅の極め付けは何と言っても温泉と食事。チェックイン、部屋割もそこそこに一同こぞって温泉へ直行。「黄金風呂」（純金無垢）「銀風呂」はこのホテル「自慢」の一つ。昇運力もアップすると専らの評判であった。

夕食は大広間で一同会食。どれもこれも絶品の品々。食卓は正に「百花繚乱」の賑わいだった。お酒も入り、食後の懇親会は一気に盛り上がり、カラオケが始まる頃はどの顔も「申し分なし」の笑顔に。

二日目、最初の訪問先は「誕生寺」。日蓮聖人誕生の地（日蓮宗大本山）にお参りした。ここで奇特な人物に遭遇した。一体どんな人物だったか。筆者の拙文より高林新会長の帰路車中で語った会話を引用することにする。

「旅に出ると思わぬ宝物が落ちているものです。山門を入るとすぐにハンドマイクでお寺の説明をする人が現れた。随分と親切なお寺だな、と感心していたら、肝心の説明は右から左へ通り抜け、気がついたら一同撮影用の椅子席へ案内されていた。被写体を笑顔にさせるコツ（口上）、写真の販売に至るまで全くそつがない。結局ほぼ全員が〈お買い上げ！〉。『これぞプロの技』を存分に見せてもらった」。確かに写真屋さんの客を引き付ける言動は百戦錬磨の達人を思わせた。作品の出来栄えも加え、帰りの車中でも暫くは話題の主となっていた。

誕生寺を後にした我が一行は道の港や道の駅に立ち寄り、海産物やお土産等を買い求め、少し早目の昼食を摂り、フェリーが待機する金谷港へと向かった。思えば、ひと時とはいえ東京湾を車と船で往復出来たことは誠に幸運であった。久里浜港を出たバスは予定通り16時30分東京駅に到着。一同しばし旅の無事と思い出に浸り、再会を約してそれぞれの家路へと向かった。

幹事の岡村さん、小室さんには大変お世話になりました。この場を借りて心から感謝申し上げます。

直会旅行

愛媛県　山村一郎

平成29年4月2日朝、久し振りに愛媛県松山市からマーシャル方面遺族会の靖国神社での慰霊祭、総会に参加した。

旧知の高林副会長の他、我々の「サザンクロス23の会」のメンバー小室洋子さん、石澤洋子さん等と再会。「サザンクロス23（ふみ）の会」とは、平成15年1月に日本遺族会主催のマーシャル・ギルバート諸島慰霊友好親善訪問団のA班23名が、帰国前日にグアム島で結成した父親達の慰霊を今後も続けようとの気持ちで集まったグループである。参加者の構成は、北海道と沖縄を除いての12都県から。

このグループは結成以来、昨年まで、年に一度の国内各地のそれぞれの出身地を慰霊の地として選び、その土地の護国神社に参拝の後、友好を深める活動を続けて来た。残念ながら4名の会員が他界された。この会は、次の様なシンボルマークまで持っている。

サザンクロス二三の会

併し、自分が遺族会の旅行に参加するのは今回が初めて。全員で16名。最初にバスで通過した東京アクアラインは、15年振りで懐かしい。千葉県側では木更津市の近くを通過。父親は木更津航空隊所属だったので、其処から昭和18年7月18日に、第七五二海軍航空隊として南方方面に向かったのだが、そこに勤務中に下宿していたのが中川さんと言われる本屋さんだったと聞いている。果たして今でも営業しておられるのだろうか。

夕刻バスは「鴨川ホテル三日月」に到着。太平洋に向かって建つ大きなホテル。

翌日（4月3日）は、日蓮上人生誕の地と言われる誕生寺参拝。ここで記念撮影をしたが、そこのカメラマンの商売上手に、一同感嘆。一枚を無料で差し上げますとの口上で、皆も買わない積りだったが、結局は全員が買ってしまう。

保田小学校（安房郡鋸南町保田724番地）の廃校を利用して作られた道の駅にも感心、金谷港発―久里浜着の東京湾フェリーも初体験。楽しい一日半の旅だった。

尚、靖国神社の総会で、高林芳夫さんが新会長に就任された。おめでとうございます。過去の歴代の会長様、当会の存続の為、長い間、本当にご苦労様でした。

寄付者ご芳名

（敬称略）

名誉会長　朝香誠彦　**相談役**　大給乗龍
黒川　誠　井上賀雄　**北海道**　岩川あい
青森県　須藤明子　**岩手県**　佐藤享三　**宮城県**　安藤としえ　佐藤　勉　**福島県**　酒井則夫　宮田きみ　古市キノ　**茨城県**　北条　晃　神永栄子　**栃木県**　菊地彦亘　**東京都**　浜田つき子　毛塚晶博　山口良二
大串直行　内海淑子　米林義昭　番場信子

中村順子　山田二美　鈴木千春　間々田征史　**埼玉県**　佐藤知子　吉原利美　小田原利子　鈴木裕子　小室洋子　大井和子　小野博孝　諸橋恒一　高林芳夫　**千葉県**　相川孝夫　東　邦義　広原　實　泉水堯恵　**神奈川県**　鈴木友季子　石澤洋子　上田文子　**山梨県**　黒川正文　**新潟県**　山田昭雄　石丸　進　本保美恵子　**富山県**　廣島富子　**石川県**　小林ヨシ子　河崎仁衛　木村久子　**岐阜県**　吉田正明　堀尾　洋　**静岡県**　大畑幸夫　**愛知県**　浜田芳枝　**京都府**　東地井義訓　**兵庫県**　宮下美佐子　**和歌山県**　福井敬眞　**広島県**　奥井禮子　瀬戸隆子　**山口県**　郡　義典　**愛媛県**　山村一郎　渡部　守　馬場　清　長岡俊夫　**香川県**　石川正興　富田佳代子　**高知県**　西岡純一　山本　忠　藤田洋子　橋本勝彦　**福岡県**　吉松貞子　平田郁子　**熊本県**　土田利子　**鹿児島県**　下吉　勲　**沖縄県**　宮城　勇

以上75名の方より、合計三〇万一五〇〇円のご寄付を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

訃報

高知県　野島鶴美様
徳弘萩子様
東京都　青木スミ様
埼玉県　千田恒子様
長野県　瀧澤弘一様
謹んでご冥福をお祈り申し上げます

千鳥ケ淵戦没者墓苑拝礼式

5月29日、当会より内海淑子・星野綾子・米林美智子・高林芳夫の4名が参列致しました。

現地慰霊報告

クェゼリン島・ルオット島慰霊

内海 淑子

平成29年1月26日、当会からの参加遺族8名、翌朝グアムで六本木男声合唱団11名と合流し、チユーク島・ポンペイ・コスラエと経由して、夕刻クェゼリンに到着しました。アメリカ国旗とマーシャル国旗がはためいて、外海の荒い波音が聞こえる島。日本から時差3時間の南の島です。

1月28日慰霊の朝、マジュロから在マーシャル日本国大使光岡英行大使と濱田青弥派遣員がおいで下さり、バスで全員慰霊碑前へ。天気はあまりよくないけれど照り付ける陽射しより、良いのではと思えました。慰霊碑の周りはテントが張られ綺麗に整備されていました。慰霊碑の中央に花輪、この度は朝香様が参列下さいましたので叔父上の音羽少佐の写真が飾られ、その周りに皆が日本から持参した写真や供物をお供えして、慰霊の準備が整い、基地司令官マイケル・ラーセン大佐もご出席下さいました。

六本木男声合唱団の力強い歌声を英霊の方々も喜んでくれたと思いました。合唱団の方々はお昼の飛行機で慌ただしくお帰りになり

ました。

午後はのんびり買い物、土曜日なので郵便局は休み、お店も所々お休みでストアしか行く所がありませんでした。

1月29日はルオット島へ船で慰霊に。光岡大使に依ると、船は日本財団が寄付した一隻で、スピードがかなり出て二時間で行けるそうです。用途は救難と密輸の取り締まりとのこと。

ルオット島の慰霊碑の前で、私達が般若心経を唱え、歌を歌い慰霊をしました。

この度の慰霊では、これまでと違って六本木男声合唱団の献歌や、マジュロから光岡大使と濱田派遣員が4日間も付き添って下さった事を心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

マーシャル諸島戦没者現地慰霊祭を顧みて

佐藤 享三

今回の墓参には遺族会から高林副会長を含め8名の方が参加されました。

現地慰霊祭には、朝香の旧宮様をはじめ、在マーシャル日本国大使光岡英行様、六本木男声合唱団・Zig Zagの三枝成彰団長以下メンバー、米国クエゼリン駐在の司令官マイケル・ラーセン閣下はじめ数名の方々の参加を頂きました。

六本木男声合唱団の献歌〝君が代〟をはじめ数曲の献歌を頂いた後、一人ひとりの焼香を行いました。翌日は我々マーシャル方面遺族会と大使と一部米軍の関係者でルオット島に行き墓参しました。

私個人としては、15年ぶりの現地慰霊祭への参加でしたが、戦場だった島が、今は米軍の管理下できれいに管理されている美しい島を見ていると、丁度70年前に、我々の父親や兄弟たちの玉砕までの一週間の激戦の地だったとはとても思えない、のどかな島で、改めて〝平和の尊さ〟を感じずにはいられませんでした。

崩れ落ちた司令部跡、塹壕、無残な姿の大砲など一部でしたが激戦の痕跡をかいま見るにつけ、戦死した方々の無念さを思うと胸が締め付けられる思いでした。今の日本の平和を、叶うことなら父親に見てほしいものです。

ご一緒された皆さん方には大変お世話になりました。有り難うございました。また、機会をつくっていつの日か墓参に行きたいと思います。

五年ぶりの現地慰霊

佐藤 知子

この度の慰霊は朝香誠彦殿下並びに六本木男声合唱団の皆様がご一緒という、いつもと異なる慰霊となった。合唱団の皆様はお忙しい中の慰霊で、超弾丸ツアーであった。28日午前慰霊祭を済ませ昼の便で帰国の途につくという忙しさであった。

会場では合唱団の人達にもお手伝いをお願いして準備を始める。朝香殿下におかれましては自らご持参された叔父上、音羽正彦候の遺影、家紋入りの盃、御神酒が供えられた。私達も持参した想い想いの供物を供えた。遺族会並びに合唱団

からの花輪が飾られ、高林さんの司会で式典が粛々と進められた。

黙祷の後、国歌斉唱「君が代」は海風の中、三枝団長率いる合唱団により風に負けない声量で荘重に流れる。初めて聞く「君が代」であった。碑の下に眠る英霊にはどんなにか懐かしく届いた事であろうか。続いて朝香殿下による祭文が捧げられた。続いて靖国神社より戴いた御神酒（おみき）で参列者全員による献杯。次に遺族の参拝・マーシャル大使光岡様・司令官マイケル・ラーセン大佐・六本木男声合唱団・会場に来られている人達全員に参拝して頂き、最後に再び合唱団による「ふるさと」「いざ起きて戦人よ」が献歌された。

式典も終わり記念撮影。片付け始めたらスコールに見舞われて大慌ててバスに逃げ込んだ。

バスで戦績を巡りロッジに戻る。合唱団は帰国の途につき空港で見送る。大変お疲れ様でした。朝香殿下におかれては最後まで時間が許せば残りたいと話されていた。終始お優しい声が耳に残った。

翌29日はルオット島慰霊。当初の予定では飛行機の予定であったが、急遽船での移動となった。船は海上警察のパトロール船である。この船は日本財団が寄付した船で一億円相当とか。

光岡大使・濱田派遣員・ルオット島酋長も同行して下さった。飛行機なら20～30分の所、船では高速艇でも2時間15分かかった。当日は風が強く内海であっても船は揺れ、船室に入らなかった者は飛沫に濡れた。ルオット島慰霊祭もクェゼリン同様に無事に済ますことが出来た。心配した掃除に関してはその必要もなく玉石の中まできれいに清掃されていた。食堂では私達のためにテーブルクロスに花を飾って歓迎して下さった。おかげで揃って和やかに食事が出来た

30日はバスにて島内巡り。4日間お世話になった光岡大使・濱田派遣員が、マジュロへお帰りになるのを空港でお見送りした。お忙しい中、本当にありがとうございました。

31日、長いようで短かったクェゼリンをあとにする。グアムのホテルに入った時は7時を回っていた。2月1日10時半、一路、帰国の途についた。

事故もなく全員無事に帰国出来ました事に感謝。皆様とご挨拶を交わし夫々家路についた。

最後に高林さんはじめ、皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

むらぎもの　心に響く「君が代」は
いついつまでも海風に添ふ

大叔父の足跡を訪ねて

松江 孝枝

今回、叔母の内海淑子、娘の理沙子と共に、クエゼリン慰霊の旅に参加させていただきました。

二日がかりで到着したクエゼリンは、椰子の木が整然と並び、芝生やアスファルトの道路は整備され、途中経由して来

た島々と比べ近代化され、環礁の島全体が米軍基地であることを、認識させられました。

クエゼリン慰霊祭では、在マーシャル諸島共和国の光岡大使と浜田派遣員、米軍関係者も同席され、三枝団長率いる六本木男声合唱団の献歌で、厳かに行われました。強い風の吹く中での準備でしたが、各自持参されたお供え物を並べているお姿を拝見し、お父上、叔父上、それぞれの肉親への思いを強く感じることができました。

翌日、ルオット島へは、予定していた軍用機での移動ができず、海上警察のパトロール船での移動となりました。日本財団寄贈の立派な船ということでしたが、私はかなりの船酔いに悩まされました。

しかし、到着した島は、大変な思いをして来たことを忘れさせてくれるほど、とてもきれいな島でした。慰霊祭の後、砲台や爆撃で崩れかけた司令部跡など、戦跡をバスで見て回ったのですが、どこも荒れ果てることなく、現地の方々が、きちんと維持管理して下さっていることもわかりました。

クエゼリン滞在最終日は、島内巡りをバスでしていただき、再度、慰霊碑を訪れ、遺族会メンバーの皆さんが、時間の許す限り、慰霊碑の前に佇みました。奇しくもこの日は1月30日、73年前の昭和19年の同日、日本軍の守るクエゼリンへ米軍が侵攻し、戦闘が始まったとのこと。この地で、わずか一週間ほどで、数千名の日本兵が、玉砕されたそうです。

若くして亡くなった大叔父は、今回訪れた私のように、空の青さ、海の青さ、珊瑚の白い浜辺に感動する束の間の時間は持てたのだろうか、と思いをはせました。

最後になりましたが、今回の慰霊の旅は、米軍関係者、在マーシャル諸島共和国の日本大使館関係者、六本木男声合唱団、そして、全行程でお世話して下さいました日本旅行の臼井さん、島名さんと、さまざまな方々に支えられ、無事に果たすことができたように思います。

そして何より、遺族会の方々との出会いに、感謝しております。母娘共々、大変お世話になり、ありがとうございました。また、お目にかかれる日まで、皆様、お元気でいらして下さい。

平和の声に耳を傾けて

松江 理沙子

私は今回のクウェゼリン訪問まで、"クウェゼリン"という言葉すら聞いたことがありませんでした。実際にクウェゼリンに降り立った時、その自然の美しさに圧倒されました。70年以上も前にアメリカとの激戦地であったこと、数え切れないほどの日本兵が戦死したことなど、ま

るで空想話であるかのように思われました。しかし、クウェゼリン島にいまでもなお残る戦火の爪痕、ルオット島にひっそりと残されている朽ち果てた戦車などを目にし、太平洋のこれらの美しい島嶼地域で実際に起きたことをやっと認識しました。また、2時間船に揺られ、やっとの思いでルオット島へ到着した際には、70年前に高性能な船も持ちわせていなかっただろう当時の日本兵の気持ちを思わずにはいられませんでした。日本とは全く異なった亜熱帯気候の中で、周囲に何もないこの島に到着した時の彼らの気持ちを思うと、胸が締め付けられました。それとともに、どうして日本は戦争に踏み込んでしまったのか、どうしてアメリカなどという大国を相手にしてしまったのか、どうして当時の日本国民の中にも戦争を支持する人々がいたのだろう、どうしてどうしてと、誰に聞いても返ってくる事がないであろう疑問ばかり湧き上がってきました。そして、その答えのない疑問に、非常にむなしい気持ちになりました。

また、クウェゼリンが激戦地であることを想わず疑ってしまったことは、クウェゼリンの自然の雄大さのみに起因するのではなく、私がアメリカ＝日本の一大友好国である時代しか知らないことも大きく起因していると感じました。私は幸運にも、平成という、日本史上でも稀な、我が国において戦争がない時代の生まれです。"戦争"とは、自分とは全くかけ離れたもの、あくまでもテレビのニュースの中の話であるとこれまで感じてきました。しかし、今回、遺族の皆様とクウェゼリンを訪問し、遺族の皆様の決して忘れることのできない悲しみの記憶に触れることで、他人事ではないのだと痛感しました。

慰霊祭には、在マーシャル諸島共和国日本大使館の光岡大使と浜田派遣員にも同席して頂きましたが、これからの日本が平和であり続けることができるか否かは、私や浜田派遣員のような若い世代にかかっているのだと強く感じました。浜田派遣員も同じように感じていたと思われます。

また、凄惨な戦争や原爆を経験し、現在では戦争のない平和な国を築き上げることができた国家として、日本が世界平和に対して担っている責任の大きさを再認識しました。負の歴史は、日本のみならず、世界のどこにおいても繰り返してはなりません。世界平和のために、日本が率先してできることはまだまだあるはずだと感じます。

今回の訪問に際し、自分の国の戦争に関する史実、自分の家族の歴史など、まだまだ知らないことが多く、自分の未熟さを改めて痛感しました。

これから少しずつ、これらのことを学んでいこうと思います。今回、最年少（24歳）の私にこのような機会を与えてくださった関係者の皆様に、心からの感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

事務局よりお知らせ

8月の全国戦没者追悼式（武道館）で、当マーシャル方面遺族会が、東京都の代表献花をすることになりました。

＊ウオッゼ連載はお休みします。

お問合せ先　高林 048-223-6110 携帯090-3337-4531 メールアドレス takabayashi.yoshio@khaki.plala.or.jp

第54回 マーシャル方面遺族会慰霊祭　平成29年4月2日　於 靖国神社